

1 - 1 日本とその周辺の地震活動 (2019年5月～10月) Seismic Activity in and around Japan (May - October 2019)

気象庁
Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺で M5.0 以上の地震は 55 回、M6.0 以上の地震は 8 回発生した。このうち最大のものは、2019年6月18日22時22分に山形県沖で発生した M6.7 の地震であった。また、2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(M9.0, 最大震度7, 以下「東北地方太平洋沖地震」と呼ぶ)の余震が、前期間に引き続き、岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生した。2019年5月～10月の M5.0 以上の地震の震央分布を第1図(a)及び(b)に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動 (本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2019年5月5日01時40分に根室半島南東沖の深さ52kmで M5.3 の地震(最大震度4)が発生した。この地震は発震機構(CMT解)が北西-南東方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した。

(2) 東北地方とその周辺の地震活動 (本巻「東北地方とその周辺の地震活動」及び「2019年6月18日 山形県沖の地震」の頁参照)

2019年6月18日22時22分に山形県沖の深さ14kmで M6.7 の地震(最大震度6強)が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この地震発生以降、地震活動が活発になり、8月31日までに最大震度1以上を観測する地震が53回発生した。この地震により津波が発生し、山形県の鶴岡市鼠ヶ関で11cm、秋田県の秋田、新潟県の新潟、石川県の輪島港で8cmの津波を観測するなど、秋田県、山形県、新潟県、石川県で津波を観測した。

2019年8月4日19時23分に福島県沖の深さ45kmで M6.4 の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。今期間に東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した M5.0 以上の地震は4回、M5.5 以上の地震は2回であった。

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動 (本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2019年5月25日15時20分に千葉県北東部の深さ38kmで M5.1 の地震(最大震度5弱)が発生した。また、1週間後の6月1日07時58分にも深さ35kmで M4.7 の地震(最大震度4)が発生した。これらの地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

2019年7月28日03時31分に三重県南東沖の深さ393kmで M6.6 の地震(最大震度4)が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プ

プレート内部で発生した。この地震により北海道地方から近畿地方にかけて震度1以上を観測したが、特に沈み込む太平洋プレート内を伝わった地震波により、宮城県で最大震度4を観測した（異常震域）。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2019年5月～10月に近畿・中国・四国地方とその周辺では、M5.0以上の地震は2019年5月10日の日向灘の地震及び2019年5月11日の日向灘の地震（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）で、他は発生しなかった。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2019年5月10日07時43分に日向灘の深さ25kmでM5.6の地震（最大震度3）が発生した。また、同日08時48分にはほぼ同じ場所でM6.3の地震（最大震度5弱）が発生した。これらの地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

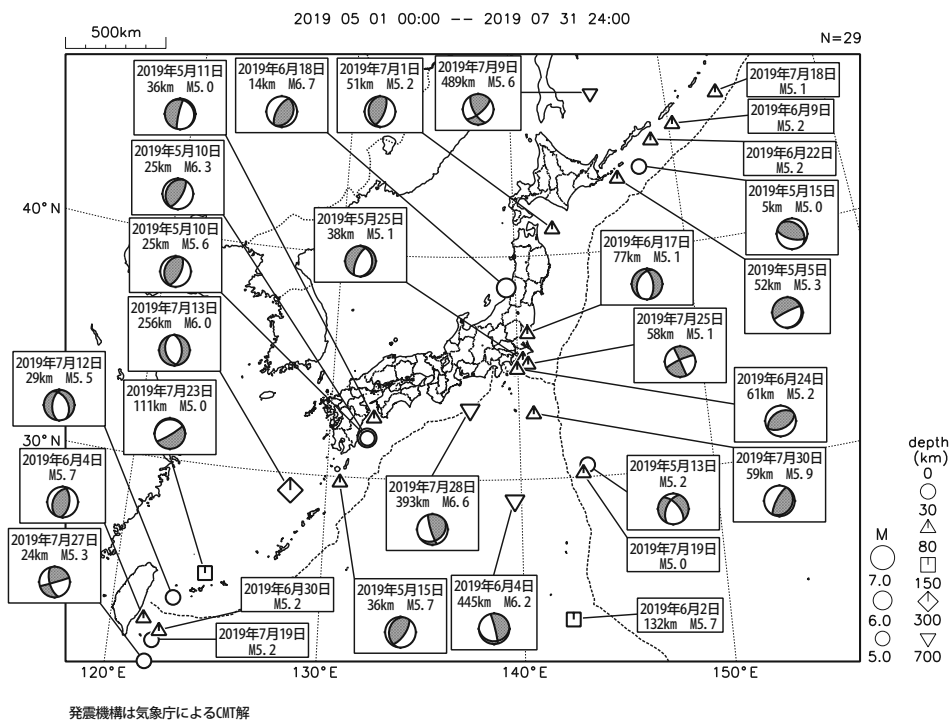
2019年7月13日09時57分に奄美大島北西沖の深さ256kmでM6.0の地震（最大震度3）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は、フィリピン海プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2019年8月24日08時44分に石垣島近海でM5.2の地震（最大震度3）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、東北東－西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

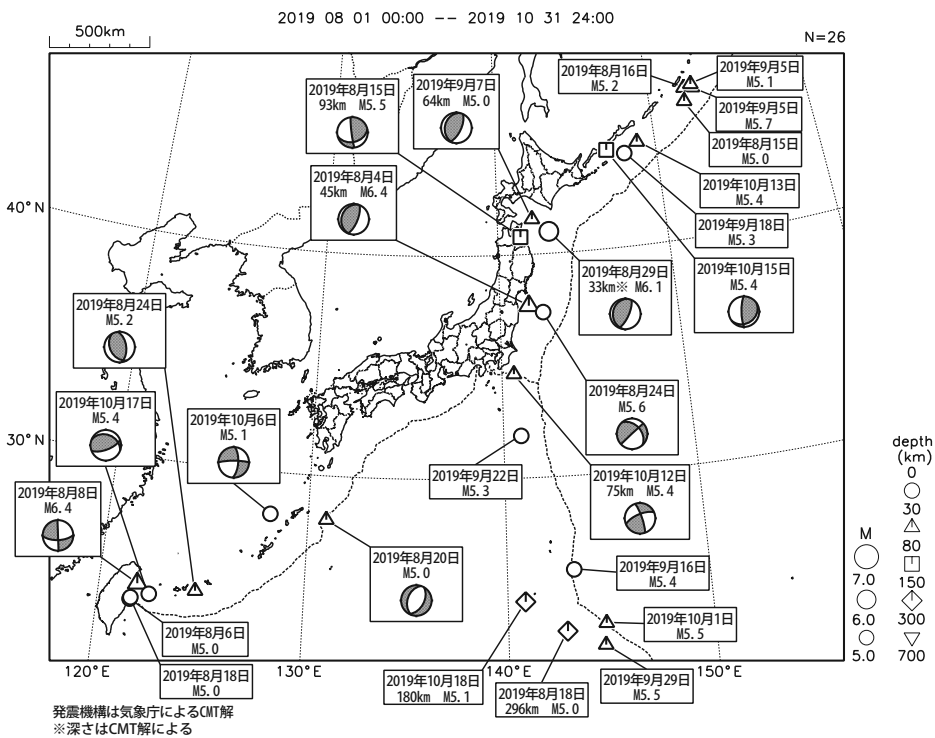
なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。2016年4月1日以降の震源では、Mの小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。

日本とその周辺の地震活動 (2019年5月~7月、M ≥ 5.0)



第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2019年5月~7月, M ≥ 5.0, 深さ ≤ 700 km).
 Fig. 1(a) Seismic activity in and around Japan (May – July 2019, M ≥ 5.0, depth ≤ 700 km).

日本とその周辺の地震活動 (2019年8月~10月、M ≥ 5.0)



第1図(b) つづき (2019年8月~10月, M ≥ 5.0, 深さ ≤ 700 km).
 Fig. 1(b) Continued (August – October 2019, M ≥ 5.0, depth ≤ 700 km).